

【テーマ3】 インフラの維持管理・活用の推進

めざす方向

- 市町村の管理施設も含めた「効率的・効果的な維持管理」や「持続可能な維持管理の仕組みづくり」を推進し、都市基盤施設の長寿命化を目指します。
- 市町村や企業、大学など、多様な主体と連携・協働して、既存のインフラ空間の効率的・効果的な活用を推進し、にぎわいの創出など都市の魅力向上を目指します。

戦略的な維持管理の推進（守る）

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール等）>	<何をどのような状態にするか（目標）>	<進捗状況（H30.3月末時点）>
<p>■ 持続可能な維持管理の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ①維持管理データベースシステムの開発推進 ②維持管理に関する新技術の開発支援 ③地域維持管理連携プラットフォームを通じた市町村支援 <p>■ 安定した下水道サービスの持続的提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流域下水道事業の「経営戦略」を策定し、老朽化設備の計画的な改築更新を推進 	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>■ 持続可能な維持管理の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ①維持管理データベースシステムの道路・港湾分野での一部運用開始(H29年10月一部運用開始、H31年度全面運用目標) ②大学や団体等との連携による新技術の共同研究や実証フィールド提供を実施 ③橋梁点検の地域一括発注の拡大 市町村の設計・工事に関する技術支援の枠組み構築 大学と連携した技術相談や研修等(41市町村)の実施 <p>◇成果指標（アウトカム）</p> <p>（定性的な目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定かつ継続的なサービスの提供 	<p>■ 持続可能な維持管理の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ①維持管理データベースシステムの道路・港湾分野での一部運用を開始[10月] ②鋼材の腐食を高感度磁気により検知する技術に道路照明柱のフィールドを提供[10月、12月] ③橋梁点検の地域一括発注を実施(23市町) 橋梁補修の設計支援を試行実施(1市) 大学と連携した技術相談・研修等(23市町)や大学でのメンテナンス講座(4大学)を実施 <p>■ 安定した下水道サービスの持続的提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南大阪湾岸流域下水道北部水みらいセンター焼却炉など、H29年度に予定していた機械・電気設備の改築更新工事の発注を完了 ・「大阪府流域下水道事業経営戦略審議会」を3回開催し、「経営戦略」を策定、公表[3月] ・H30年度当初からの地方公営企業法の適用に向けた「大阪府流域下水道事業条例」を9月議会で制定・公布

多様な主体との連携による都市インフラの効率的・効果的な活用（活かす）

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）>	<何をどのような状態にするか（目標）>	<進捗状況（H30.3月末時点）>
<p>■ 府営公園の活性化</p> <p>（公園施設設置管理許可制度(*29)の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にぎわい」施設の設置の推進 	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>■ 府営公園の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久宝寺緑地において、インフォメーションスペースなどを備えたコンビニエンスストアを設置(設置事業者はH28年度に決定済) ・浜寺公園や服部緑地などにおいて、コンビニやカフェ、ドッグラン 	<p>■ 府営公園の活性化</p> <p>（公園施設設置管理許可制度(*29)の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久宝寺緑地において、コンビニがオープン[1月] ・浜寺公園において、コンビニを設置する民間事業者

<p>■道路の無電柱化の推進（再掲）</p> <p>■都市の魅力づくり</p> <p>①竹内街道・横大路(大道)の活性化 ②クルーズ客船の堺泉北港への誘致推進</p> <p>■アドプト・プログラム(*31)の推進</p> <p>・新たな仕組みづくりに向けた取り組み推進</p>	<p>等のにぎわい施設を設置する民間事業者を公募し決定</p> <p>■道路の無電柱化の推進（再掲）</p> <p>・大阪港八尾線(八尾市)、堺阪南線(高石市)等の無電柱化事業を着実に推進 「大阪府電線類地中化マスタープラン」に代わる新たな無電柱化推進計画の策定</p> <p>■都市の魅力づくり</p> <p>①H29年4月の日本遺産(*30)の認定を受けて、モニター調査や新たなホームページの作成などの地域魅力の発掘・発信とともに、大学、観光協会や観光ボランティア団体等の参画も得て推進体制を強化するなど、地域活性化に向けた取り組みを推進 ②地元市町とともに、港周辺の観光資源や具体的な寄港地観光コースの提案など、船社等に対する誘致活動を推進</p> <p>■アドプト・プログラムの推進</p> <p>・「大阪府アドプト・プログラムのあり方懇話会」等との意見交換を通じ、量から質への転換を図り、多様な主体がお互いにwin-winになるような仕組みを構築</p> <p>◇成果指標（アウトカム） （定性的な目標） ・都市の魅力の向上</p>	<p>が決定〔3月〕</p> <p>・服部緑地等において、民間事業者の活用アイデアを求めるサウンディング型市場調査を実施〔～3月〕</p> <p>■道路の無電柱化の推進（再掲）</p> <p>・大阪港八尾線（八尾市）他、計5路線の無電柱化事業のうち4路線で事業を着実に推進、1路線で電線共同溝整備計画を策定し工事着手 ・無電柱化推進計画は、重点整備の考え方や推進方策を検討し、H30年3月に策定・公表</p> <p>■都市の魅力づくり</p> <p>①モニター調査、ホームページの作成、街道表示板（53箇所）設置、PR映像作成などで、地域魅力を発掘・発信し、周遊バスイベントでは観光ボランティアや地域団体の参画により2日間（2/18・3/18）で600人以上の利用があり、地域活性化に向けた取り組みを推進した ②平成30年10月、堺泉北港へのクルーズ客船「ばしふいっくびいなす」の寄港が決定。同船の受入体制の充実に向け取り組むとともに、更なる寄港に向けて誘致活動を展開中</p> <p>■アドプト・プログラム(*31)の推進</p> <p>・あり方懇話会(第1回、第2回)の意見を踏まえた方針案を策定し、各事務所と意見交換を実施。それら意見もあわせ、新たな仕組みづくりに向けて、懇話会の各委員から個別に意見聴取を実施した後、第3回懇話会を開催し〔2月〕、方向性を取りまとめた</p>
--	---	---

【部局長コメント（総評）】

＜取組状況の点検＞

都市基盤施設の長寿命化に向けた効率的な維持管理や既存インフラ空間の効果的な活用の推進については、当初の目標をほぼ達成することができました。

■ 戦略的な維持管理の推進（守る）

当初の目標を達成することができました。

- ・「持続可能な維持管理の仕組みづくり」、「安定した下水道サービスの持続的提供」については、当初の予定どおり進みました。

■ 多様な主体との連携による都市インフラの効率的・効果的活用（活かす）

当初の目標をほぼ達成することができました。

- ・「府営公園の活性化」については、概ね当初の予定どおり進みました。
- ・「道路の無電柱化の推進」（再掲）、「都市の魅力づくり（竹内街道・横大路（大道）の活性化）」、「アドプト・プログラムの推進」については、概ね当初の予定どおり進みました。
- ・「都市の魅力づくり（クルーズ客船の堺泉北港への誘致推進）」については、堺泉北港へのクルーズ客船「ぱしふいっくびいなす」の寄港が決定し、当初の目標を達成することができました。

＜今後について＞

■ 戦略的な維持管理の推進（守る）

- ・戦略的な維持管理を推進するため、予防保全の基礎となる点検等のデータを一元管理するデータベースの H31 年度全面運用開始に向け構築を進めます。また、市町村の橋梁点検業務の地域一括発注の支援を継続するとともに、点検結果を踏まえた補修等の設計及び工事に対する支援拡大に向けて、制度面の検討を進めます。
- ・引き続き、老朽化が進む流域下水道施設の機械・電気設備について改築更新を着実に進めます。
- ・地方公営企業法適用後は、透明性の高い企業運営に取り組みつつ、経営戦略に基づき更なる経営改善に努めるとともに、経費負担の適正化などについて市町村をはじめ関係機関との協議調整を進めます。

■ 多様な主体との連携による都市インフラの効率的・効果的活用（活かす）

- ・公園のさらなる魅力づくりに向け、民間活力の導入及び指定管理者制度の見直しを推進します。
- ・道路の無電柱化については、平成 30 年 3 月に策定した無電柱化推進計画に基づき、事業を着実に推進します。（再掲）
- ・竹内街道・横大路(大道)活性化実行委員会において、観光ボランティア団体や観光協会、市町村の文化財所管課等を含む日本遺産専門部会を立ち上げ、地域の活性化に向けた協議やワークショップ等を実施していきます。
- ・引き続き、アドプト・プログラムのあり方検討を進め、企業や団体等、多様な主体が参画しやすい、活動が発展できる仕組みを構築し、団体・職員等のモチベーション向上をめざします。
- ・今秋の「ぱしふいっくびいなす」及び来春の「飛鳥Ⅱ」（平成 30 年 4 月公表）の寄港を成功させるとともに、それら受入で得られたノウハウを生かして、引き続き港湾管理者である大阪府と地元市町が連携し、日本船の寄港実績をさらに積み上げるとともに、外国船の新たな寄港実現にも取り組んでまいります。